

＊認知症の正しい理解と支援を推進する 「オレンジロードつなげ隊」のエコバックを作りました＊

京都府では、認知症の人とともに本人の意思が尊重され住み慣れた地域で暮らし続けられる社会を目指して、市町村、地域の関係団体と一緒に仕組みづくりを進めています。山城北保健所では、認知症の正しい理解と支援を推進するため、オレンジ色のフクロウをシンボルマークにした「オレンジロードつなげ隊」を平成26年度に結成し、市町村とも連携し、地域での普及啓発に取り組んでいます。



＊ シンボルマーク（オレンジフクロウ）の意味は、ふくろうは、360° あたりを見渡すことができることから、高齢者の方が介護や療養が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、ハートを胸に抱きしめ、優しい眼差しで、広く長く見守るという思いが込められています。

今年、当保健所では、宇治市にある京都芸術高等学校にオレンジロードつなげ隊のシンボルマークをモチーフにしたエコバックのデザインを作成していただきました。多くの優秀作品の中から「片桐沙耶香」さんのデザインを採用させていただきました。

「『オレンジロードつなげ隊 のエコバック』がほしい」

と言っただけであればお渡ししますので気軽にお声かけください。

＊数に限りがありますので、無くなり次第終了とさせていただきます。



片桐沙耶香さんの制作コメント

「ふくろうの廻りの町は住みなれた地域を表現し、真ん中にあるふくろうは360°優しい眼差しであたりを見渡し広く長く見守っているのを表現しました。」